

自 己 点 検 表

1. 教員個別表

フリガナ ッダ アヤコ 氏 名 津田 綾子	職 名 助教 人間学部 子ども教育学科	取 得 学 位 修士 (大学名) 宮城教育大学(取得年月)2022 年 3 月
--------------------------	------------------------	--

2. 教育・研究業績表

(1) 過去 5 年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概 要
・授業における ICT の活用	2022.4 - 現在	UNIPA、Google Form、QR コード、動画等を活用し、ICT を用いた授業を行っている。受講学生からの評価も良好である。
・グループ学習の導入	2022.4 - 現在	担当教員からの一方通行の授業ではなく、学生自身が深く考えることができる機会を作っている。受講学生を数名ごとのグループに分けることで、学生個人の取り組みや課題に対する意識付けの深化につながると考えている。グループ学習の後には、発表の機会を設けることで、学生は積極的に取り組むことができている。
・授業における教材作成	2022.4 - 現在	プレゼンテーション用スライド、ワークシート、PDF など多様な教材を自作し、目的に応じて使い分け授業を実施している。スライドを作成する際は、視覚的に分かりやすいデザインを心がけている。これらの教材を活用した授業では、受講学生は積極的に授業に参加し課題に取り組んでいる。また、受講学生からの評価も良好である。
・模擬保育の実施	2023.4 - 現在	学外実習指導の授業では、保育場面を想定した実演を行っている。現場での勤務経験を活かし、どのように保育を作り上げているのか、保育者がどのような配慮をしているのかを受講学生が考えながら模擬保育に参加できるように模擬保育を行っている。模擬保育に参加するだけでなく、学生自身の気づきをグループ学習へ繋げ、受講学生全体に共有することで保育について理解が深まるような授業を行っている。
・リアクションペーパー(Google フォーム)の活用	2022.4 - 現在	毎回の授業の終わりにミニットペーパーを用いて、学生が授業内容について振り返り要点をまとめる時間を設けている。また感想や疑問については次回の授業内でフィードバックし、他の学生が感じた・考えたことを受講学生全体で共有し、より多角的に授業内容を振り返ることができるよう配慮した授業を行っている。受講学生からの評価も良好である。

(2)過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
園長のワークエンゲージメント ーこども誰でも通園制度をめぐるー	共	2025 年 5 月	日本保育学会第 78 回大会	香曾我部琢 他 8 名		
実習および実習指導の取り組み	共	2025 年 2 月	仙台白百合女子大学教職課程 研究センター報第 4 号	三浦主博 松好伸一		pp. 11-14
熟達者は未満児クラスを担当する保育者にどのよ うな資質を求めているか(3) H 保育者の事例をもとにした PAC 分析から	共	2024 年 11 月	日本乳幼児教育学会第 34 回大 会	小森谷一朗 田宮希砂 駒久美子		
究極の選択!!あなたはどっちの保育園に勤めたい？	共	2024 年 5 月	日本保育学会第 77 回大会	香曾我部琢 他 8 名		
保育者が子どもの心情を理解するプロセス ーTEM と NIRS による混合研究法よりー	共	2023 年 5 月	日本保育学会第 76 回大会	香曾我部琢 他 6 名		
製作遊びにおける幼児の相互作用について ー幼児の「視線の先にあるモノ」からみる幼児理解 ー	単	2022 年 3 月	宮城教育大学修士論文			
保育者の専門的資質を育成するためのマルチモー ダル分析用情報機器とアプリケーションの活用 ー幼児の製作遊びにおける保育者の役割について ー	単	2021 年 3 月	宮城教育大学情報活用能力育 成機構研究紀要 第 1 巻			pp. 19-27

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監訳書の場合)	該当頁数

学術研究発表						
発表テーマ			発表年月(西暦)	発表場所		
保育者が子どもの心情を理解するプロセス ーTEMとNIRSによる混合研究法よりー			2023 年 5 月	日本保育学会第 76 回 熊本学園大学大会 口頭発表		

Ⅱ 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
日本保育学会	会員	2019 年 8 月
日本子ども社会学会	会員	2021 年 6 月
日本乳幼児教育・保育者養成学会	会員	2023 年 9 月
日本乳幼児学会	会員	2024 年 2 月

Ⅲ 研究費の助成を受けた研究(過去 5 年間)				
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)

3. 特記事項

【非常勤講師】 ・宮城教育大学「保育内容(表現)指導法」(2022.10ー)
--